

見守りを、監視ではなく 安心のインフラへ。

カメラを使わず、人の状態変化を見守る
ミリ波×AIセンサー「**MotionCatch**」

プライバシーに配慮しながら、転倒・離床・滞留などの状態変化を
非接触で検知し、見守りを支援します。

本資料は、利用者・ご家族・支援者の皆さまとの意見交換を目的としています。

AetherCare



見守りの現場には、まだ解決しきれていない課題があります

安全確保とプライバシー配慮を両立しながら、現場の負担を減らすことが求められています。



気づきの遅れ

個室や夜間など、常に人の目で確認することが難しい場面では、転倒や状態変化への気づきが遅れることがあります。



プライバシーへの配慮

個室・トイレ・浴室などでは、映像を取得するカメラの設置が難しく、見守り方法の選択肢が限られます。



支援者の負担

夜間巡回や広い施設での目視確認は、スタッフの心理的・身体的な負担につながります。



そこで、カメラを使わない「ミリ波×AI」で見守りを支援します

映像を取得せず、非接触で人の動きや状態変化の把握を支援します。

MotionCatchでできること

難しい技術よりも、「現場で何が分かるか」を中心にご紹介します。



転倒

転倒を検知し、
早期の気づきを支援



離床・在室

離床や入退室、
在室状況を検知



カメラレス×非接触



滞留・長時間不動

一定時間の滞留や、
長時間動きがない状態を検知



心拍・呼吸・睡眠

非接触で心拍・呼吸や
睡眠状態の把握を支援

検知結果は、Web／モバイルの管理画面で確認し、リアルタイム通知やログ確認などに活用できます。

※本製品は見守り支援を目的としたものであり、医療機器ではありません。

障害福祉の現場で、どのように役立てられるか

以下は想定する活用場面です。実際の現場に合う形を、皆さまのご意見を伺いながら検討したいと考えています。



障害者支援施設

個室や夜間の見守り
転倒・離床・長時間不動など
への気づき



グループホーム

生活のプライバシーに配慮
しながら、必要なタイミング
で状態変化を把握



在宅での見守り

ご本人の生活を尊重しながら
離れて暮らす家族や支援者の
安心を支援



プライバシー空間

個室・トイレ・浴室など
カメラを導入しにくい
場所での見守り



皆さまの現場では、どのような見守りが求められていますか？

利用者ご本人・ご家族・支援者の皆さまの声を、ぜひお聞かせください。

仕組みと特徴

ミリ波センサーで捉えた情報をAIで解析し、管理画面や通知につなげます。



ミリ波で検知

60GHz帯の電波を利用
映像を撮影せずに人の動きを捉える



AIで解析

転倒・離床・滞留など
状態変化の検知を支援



管理・通知

Web／モバイルで確認
リアルタイム通知・ログ管理



必要に応じて連携

既存システムなどとの
API連携にも対応



映像を取得しない
プライバシーに配慮



非接触
身につける必要なし



24時間365日
継続的な見守りを支援



一元管理
複数拠点にも対応

仕様例：最大検知範囲24㎡ / 最大8名、天井または壁面設置、Wi-Fi接続。設置環境や条件により仕様・機能は変動する場合があります

皆さまの声を、これからの開発・改善に生かしたい

MotionCatchをより現場で役立つものにするため、ぜひ率直なご意見をお聞かせください。

- ① 見守りの現場で、特に困っていることは何ですか？
- ② 転倒・離床・長時間不動など、特に必要な検知は何ですか？
- ③ カメラを使わない見守りについて、どのように感じますか？
- ④ 通知方法や管理画面は、どのような形だと使いやすいですか？
- ⑤ 導入するとしたら、どのような点が不安・課題になりそうですか？

利用者・ご家族・支援者の皆さまとの対話を通じて、より良い見守りの形を一緒に考えていきます。